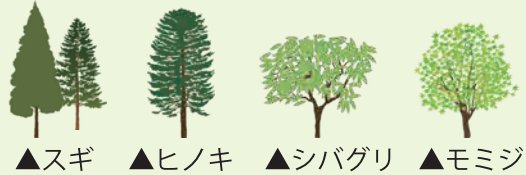


木々と歩く小田深山の道 旧森林鉄道 獅子越峠～淵首



- 旧森林鉄道軌道（推定）
- 石垣
- 林道（立入禁止）
- 現存する建物
- 現存しない建物

木を運ぶ機関車



昭和初期の小田深山には、米国のパルカン・アイアン・ワークス社製の機関車が走っていました。機関車は、旧森林鉄道の本線のうち、淵首から獅子越峠までの高低差約 170m、距離約 6km の道のりを 1 日 3 往復し、天然の大木や 100 俵の炭俵を載せたトロッコを牽引していました。3 名の運転手が交代しながら運行していました。

2 住宅地があった温水



昭和 30 年代の温水の様子

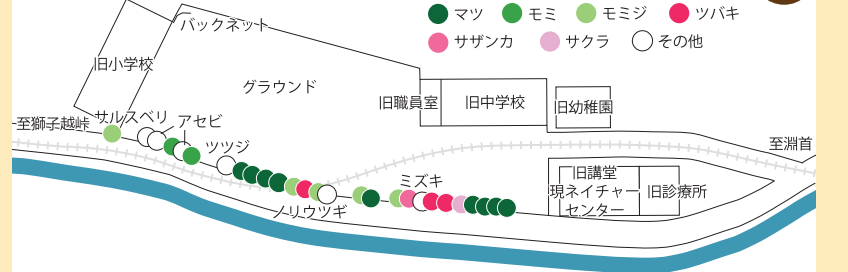
温水には、大正から昭和初期にかけて、山の斜面に造られた石垣の上に営林署の平屋建て官舎が並び住宅地がありました。高知県や小田の参川などから林業関係者とその家族が移住し、最盛期には 20 軒程度の家がありました。

5 子供達の学び舎 旧小田深山小学校



旧小田深山小学校は小田深山唯一の小学校です。昭和 8（1933）年築の校舎の敷地内には幼稚園や中学校、診療所がありました。最盛期には 71 人もの児童が通いましたが、平成 14（2002）年に閉校しました。かつての講堂は、現在ネイチャーセンターとして小田深山の自然活動の拠点となっています。

現在も建物が残る旧小田深山小学校の様子



くらがり峠



鉄道運行以前はこの峠を越えて牛馬が木を引き、中川まで搬出しました。

蔵ヶ谷の落の元



1



翠明橋



黒川には、アメノウオ（アマゴ）やカワガラス、ヤマセミが生息しています。

石垣



旧森林鉄道運行時の石垣であると推測されます。

マユミの群生



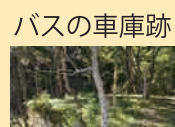
薄紅の実がなるマユミが秋の小田深山を彩ります。

小田深山人工造林発祥の森



小田深山の植林は明治 21（1888）年にこの付近から始まりました。

バスの車庫跡



廃線後に道路ができ、営林署で働く人々を淵首へ送るバスが走りました。

3

総山祇神社

A 温水

B 鬼ヶ臼

小学校のプール跡



岩で黒川の水をせき止めてプールが作られました。

木地師とトクサ

小田深山には、江戸後期から多くの木地師が住んでいたとされます。木地師が木を磨くために使っていたのがトクサ（砥草）です。トクサはガラス質でやすりのような表面をしており、木を磨くことができます。トクサが生えている場所は木地師ゆかりの地だといわれています。

アメノウオ



黒川に生息するアメノウオ（アマゴ）は、雨が降ると活動が活発化し、よく釣れる魚です。小田深山では、アメノウオの土手焼が郷土料理としてよく食べられていました。黒川沿いの旧小田深山小学校の宿舎に住んでいた先生は、黒川で釣り上げたアメノウオを夕食に食べていたそうです。

1 木地師の里 ハナツキ



江戸時代から小田深山には木工品を製造する木地師が住み、ハナツキにも木地師の集落がありました。「七供養 花月（ハナツキ）」の東側には、墓地が残ります。七供養とは、山の神の怒りを鎮めるための供養です。

3 山の守り神 総山祇神社・鬼ヶ臼観音



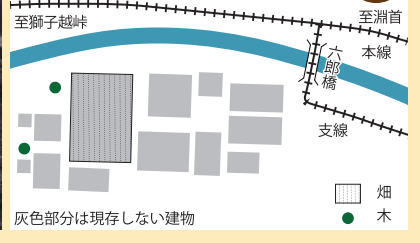
総山祇神社は、古くから山仕事の安全を祈願するための神社として林業関係者に信仰されており、信仰の範囲は高知県にまで広がります。総山祇神社の鳥居をくぐり、右手側にある鬼ヶ臼観音は、平成 12（2000）年に移築されたものです。

4 支線と本線を繋ぐ林業の拠点 鬼ヶ臼

鬼ヶ臼は妙見森などから伐り出した木を集積する重要な拠点でした。大正 7（1918）年頃には造林から木材生産・流通を行う斫伐事業所が設置されました。現在の六郎橋付近には林業従事者の住宅がありました。



旧森林鉄道運行時の鬼ヶ臼の様子



トロッコでの木材の運搬



旧森林鉄道では機関車以外に牛や馬でトロッコを引いて木材を搬出していました。温水で撮影された古写真からも当時の様子が伺えます。また、牛馬が歩きやすいように枕木を地中に埋めている所がありました。

モミジとケヤキの合体木



シオジの巨木



七供養 地蔵淵



3 本のスギの根元に岩と祠があります。

